〔第3種郵便物認可〕

絵画や陶芸、造形…150点

障害のある人 40人の個性

あすからアールブリュット展

御坊

障害のある人たちが制作した芸術作品を紹介する「アールブリュット和歌山展　魂のであうところ」が13日、御坊市御坊のぎゃらりーなかがわ（旧中川邸）で始まる。12月25日まで。

アールブリュットは「生の芸術」を意味する仏語で、一般的な美術教育を受けていない人が自由な発想で表現する活動を指す。

和歌山展は今年4回目で、障害者らが通う県内の6事業者が協力し、県福祉事業団が主催する。約40人が制作した絵画や陶芸、造形、編み物など計約150点を展示する。

先月には和歌山市で先行展が開かれており、この後も田辺市文化交流センターたなべる（同市東陽、2019年1月26日～2月11日）や太地町立石垣記念館（同町常渡、2月22日～3月6日）で巡回展が開かれる。

県福祉事業団の担当者は「一人一人が本当に作りたい作品を制作した。個性あふれる表現者が県内にもたくさんいることを知ってほしい」と話している。

御坊市での展覧会は午前11時～午後4時半。水曜休廊。11月25日午後1時半から、アートディレクターや作者と共に作品を鑑賞するギャラリートークもある。問い合わせは県福祉事業団（0739・47・6640）へ。

【阿部弘賢】

アールブリュット展のチラシ

和歌山　すっきり